
[成果情報名] イチゴ「あまおう」における夜冷短日及び低温暗黒処理の処理方法

[要約] イチゴ「あまおう」の低温暗黒処理では、8月13日以降に処理を始め23日程度処理すると、頂花房の出蕾が揃う。また、陽光処理することにより花芽分化率が高まる。夜冷短日処理では、処理開始が8月25日以前で20～25日間、9月9日では10日間処理すると、頂花房の出蕾が揃う。

[キーワード] イチゴ、あまおう、夜冷短日処理、低温暗黒処理、花芽分化、頂花房出蕾

[担当部署] 野菜栽培部、イチゴ栽培チーム

[連絡先] 092-922-4364

[対象作目] 野菜 [専門項目] 栽培 [成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

イチゴ新品種「あまおう」は、自然日長条件での花芽分化は遅く、普通促成栽培だけでは年内の収量が少ないため、早期出荷による有利販売や生産者の労働分散のために頂花房の花芽分化促進技術の確立が要望されている。

そこで、8月の処理開始における低温暗黒処理や夜冷短日処理の処理方法を確立する。

[要望機関名 : 生産流通課、北九州普及センター、築上普及センター(H15)]

[成果の内容・特徴]

- 1．低温暗黒処理では、8月上旬に処理開始すると頂花房出蕾率が低下するが、8月13日以降は23日～24日間処理すると出蕾が揃い、花芽分化が促進される。(表1、表2)
- 2．イチゴ「あまおう」の低温暗黒処理では、陽光処理を2回行うことにより、処理終了時の花芽分化率と定植後の開花株率が高い。(図1)
- 3．夜冷短日処理では、処理開始が8月25日以前で20～25日間処理、処理開始が9月9日では10日間処理を行うと頂花房の出蕾が揃い、花芽分化が促進される。(表1、表2)
- 4．夜冷短日処理は低温暗黒処理と比較して第1次腋花房が早く出蕾する株の発生割合が高い。(表2)
- 5．定植から頂花房が出蕾するまでの日数は、低温暗黒処理が夜冷短日処理より短い。(表2)

[成果の活用面・留意点]

- 1．「あまおう」の花芽分化の促進技術として活用できる。
- 2．低温暗黒処理の温度は16℃設定である。

[具体的データ]

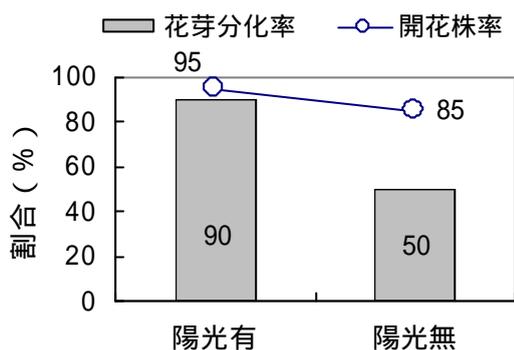


図1 低温暗黒処理、陽光処理と花芽分化、開花促進効果（平成16年度）

- 注) 1.低温暗黒処理：8月16日～9月8日
 2.育苗容器：9cm黒ポット
 3.陽光処理：9月3日、9月6日
 4.花芽分化率は肥厚後期以上とする

表1 夜冷短日処理、低温暗黒処理の効果（平成15年度）

花芽分化処理方法	処理開始	処理日数	頂花房	第1次腋花房が早	処理終了（定植）から開花ま
			出蕾率	く分化した株率	での日数
		日間	%	%	日
低温暗黒処理	8月4日	24	87	0.0	42
	8月8日	27	89	0.0	40
	8月13日	23	98	0.0	40
	8月18日	23	98	0.0	40
	8月23日	24	100	0.0	40
夜冷短日処理	8月4日	23	100	0.0	43
	8月8日	25	100	0.0	41
	8月13日	23	100	21.3	43
	8月21日	20	100	0.0	44
	8月25日	22	100	10.6	42
	9月9日	10	100	27.1	46

- 注) 1. 第1次腋花房が早く分化した株は、頂果房出蕾後に新葉が2枚以内で出蕾した株とする。
 2. 陽光処理は、低温暗黒処理17～18日目に1回目、3日後に2回目を行った。

[その他]

研究課題名：イチゴ「あまおう」の栽培技術の確立

頂果房の花芽分化促進技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成16年度（平成13～16年）

研究担当者：北島伸之、佐藤公洋